



なぞって練習

主人がいなければつけない裳を言いわけほどこにでも女たちがつけておられますから、主人である女が一人居るに違いございませぬ。昨日夕日がすっかり家の中へさし込んでいました時に、すわって手紙を書いている女の顔が非常にきれいでした。物思いがあるふうでございましてよ。女房の中には泣いている者も確かにありました」

■ 参考

※ 裳【も】

(青空文庫のフリガナより)